

世界の基が据えられる前から

エペソ人への手紙 1章 3-7節

はじめに

今日は、私たちはなぜ救われたのか、私たちの救いの根拠についてお話したいと思います。

1. 神の選びと愛の先行性

4節には、「**神は、世界の基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです**」とあります。

エペソ人への手紙は、使徒パウロがエペソ教会のクリスチャンたちに書いた手紙ですが、パウロは「私たちは世界が造られる前から、神様によって選ばれていた」と言います。神様によって選ばれていたからこそ、私たちはイエス様を信じ、クリスチャンになったのだと言うのです。

私たちがイエス様を信じ、クリスチャンになるまでには様々なことがあったでしょう。ある人は素直に信仰を持った人もいるでしょうし、ある人は何年も求道して、悩んだ末に信仰を持った人もいるでしょう。

しかしイエス様は、こう言われるのです。「**あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選**」んだのだと。(ヨハネ 15:16)。また使徒ヨハネもこう言いました。「**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し**」たのだと(1ヨハネ 4:10)。

私たちと神様との関係は、神様の恵みから始まったのです。決して私たちからではありません。神様が私たちを選んでくださったから、私たちも神様を選んだのです。世界には多くの宗教があり、日本にも八百万の神がいると言われていた中で、なぜ私たちが主なる神様を信じるようになったのか。それは、主なる神様が私たちを選んでくださったからです。

また神様が私たちを愛してくださったから、私たちも神様を愛するようになったのです。私たちが神様を愛して、神様に良く従い、良い行いをしたから、良い人間になったから神様が愛してくださったわけではありません。神様が私たちを愛してくださったから、私たちは変えられ、心から神様に従いたい、成長したいと願うようになったのです。

このように私たちと神様との関係は、神様の選びと愛によって支えられているのであって、決して私たちの決意や良い行いによってではないのです。

神様は世界が造られる前から、私たちの腕を握ってくださっていました。そしてイエス

様をこの世に送り、私たちに福音を伝え、私たちにも神様の腕を握り返してほしいと願っているのです。この神様の腕を握り返すことが、私たちの信仰です。

2. 神の選びと愛の確かさ

しかし私たちは、一度神様の腕を握っても、人生の様々な試練の中で信仰に迷って、神様の腕を放してしまうこともあります。しかしそのような時にも、私たちが神様との関係を失ってしまわないために、神様がしっかりと私たちの腕を握り続けていてくださるのです。

詩篇 73：21-24 には、こうあります。「**私の心が苦みに満ち、私の内なる思いが突き刺されたとき、私は愚かで考えもなく、あなたの前で、獣のようでした。しかし、私は絶えずあなたとともにいました。あなたは私の右の手を、しっかりつかんでくださいました。あなたは、私を諭して導き、後には栄光のうちに受け入れてくださいます**」。私たちは人生の試練の中で、獣のように我を忘れる時があります。しかしそのような中でも、神様は私たちの腕をしっかりつかんでいてくださり、私たちを天国まで導いてくださるのです。

ある人は、神様と私たちの関係は手を握り合う関係だと考えています。しかし、手を握り合う関係だと、どちらかが手を放すとお互いの関係は離れてしまいます。私たちがもし人生の試練の中で信仰に迷って、神様の手を放してしまったら、そこで神様との関係を失ってしまいます。

しかし聖書は、神様と私たちの関係を究極的に支えているのは、私たちの信仰や良い行いではなく、神様の選びと愛であると教えています。私たちはイエス様を信じてもお、罪の性質を完全に拭いきれない存在です。それゆえに迷うことも、浮き沈みもあります。一時的に信仰から離れてしまうこともあるかもしれません。しかしそれでも私たちは、最終的に神様との関係を失うことはありません。私たちの救いは、世界が造られる前から定められていた神様の選びと愛によって支えられているからです。

3. 神の選びと愛と私たちの救いの確信

私たちは、自分が救われている確信があるでしょうか。ある人は、自分はイエス様を信じているけれども、救われているかどうか自信がないと言います。それは、自分を信じているからです。自分の信仰、自分の行ない、それらを信じていても、私たちはいつまでも救われている確信を持つことはできません。自分の信仰は弱く、浮き沈みがあることがよく分かっているからです。私たちは、自分を信じるのではなく、神様を信じなければなりません。神様の選びと愛の確かさを信じなければなりません。私たちの救いは、自分に懸かっているのではなく、神様に懸かっているのです。この世で、自分ほど不安定で当てにならない存在はありません。私たちの救いが、私たちに懸かっているのだとしたら大変です。ある時は救われていて、ある時は救われていない、そんな状態を繰り返すだけです。

しかし、私たちの救いが神様に懸かっているのだとしたら安心です。この世で神様ほど確かな方はいません。私たちの救いが、神様に支えられ守られているのだとしたら、私たちは今、確かに救われているとすることができるのです。

信仰とは、自分を信じることではありません。神様を信じることです。私の救いも、信仰もすべて神様が支え守ってくださると信じることです。そうして天国まで導いてくださると信じることです。

私たちはこれから、どうなるのか分かりません。私たちの人生で何が起こるのか分かりません。精神的な病になることも、障がいを持つことも、認知症になることもあるかもしれません。そのような中で、自分の信仰、自分の良い行いと言える確かなものを何も持たなくなるかもしれません。しかしそれでもなお、私たちが救われていると言えるのは、神様の確かな選びと愛があるからではないでしょうか。

私は中学二年生の時に、自分の信仰について悩みました。同世代の友人が洗礼を受けたからです。私には信仰を拒む理由はありませんでした。しかし、自分の信仰はこれでよいのかと不安でした。周りの大人のクリスチャンのように熱心ではない、聖書のこともよく知らない、自分がこれからも信仰を持ち続けることができるか自信がない、だから信仰の決心ができずにいました。そのような時、先ほどの二つの御言葉が目にとまりました。「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選んだのだ」「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛したのです」。これらの御言葉を通して、私は自分のことは信頼できないけれども、神様を信頼してみようと思ったのです。神様の選びと愛に、自分のすべてを委ねてみようと思決心したのです。

キリスト教の信仰は、自分を信じるものではありません。神様を信じるものです。私たちは自分ばかり見ていると何の希望も生まれません。私たちの目を神様に向けなければなりません。神様には愛と希望が溢れています。

おわりに

(1)神への賛美

では、この神様の選びと愛の恵みを知った私たちに、神様は何を求めているのでしょうか。3節には、「**私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように**」とあります。また6節には、「**神がその愛する方において私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです**」とあります。

私たちの救いが、世界が造られる前から定められていた神様の選びと愛によって支えられていると知ったなら、私たちはすべての栄光を神様にお返しして、神様を賛美すべきなのです。

(2) 聖化への道

また 4 節には、「神は、世界の基が据えられる前から、この方であって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです」とあります。神様が私たちを選び、愛された目的は、私たちが御前に聖なる、傷のない者になるためです。それは、私たちが罪から離れ、イエス様の似姿へと成長して変えられていくことです。もちろん、私たちが完全に罪から救われ、イエス様の似姿に変えられるのは、イエス様が再び来られる再臨の時です。しかし私たちは、この地上の生涯の最後まで、罪と戦い、イエス様に向かって成長し変えられていくことを目指さなければなりません。

(3) 信仰の決心

また 7 節には、「このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです」とあります。神様の選びと愛は、イエス様によって実現されました。イエス様が十字架で血を流し、私たちを罪から贖い、神様の御前に義と認めて、すべての罪が赦される道を開いてくださいました。私たちは、その恵みに応えなければなりません。世界が造られる前から私たちの腕を握ってくださった神様の腕を、イエス様を信じることを通して、私たちも握り返さなければなりません。神様は私たちに、恵みに応えてほしい、御自身の腕を握り返してほしいと願っておられるのです。

(4) 伝道の励まし

イエス様はある時、パウロに向かってこのように言いました。「**恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから**」(使徒 18:10)。この世界には、神様が選ばれた人々がまだ沢山います。神様の選びと愛は、私たちの伝道を通して明らかにされていきます。神様は、御自身が選ばれた人々を救うために、私たちを用いられます。私たちは、神様が選ばれた人々を救うために、イエス様の福音を伝えて伝道しなければなりません。

(5) 信仰の回復

私たちの教会には、教会から離れて行った人々がいます。また私たちの家族にも、教会から離れて行った人々がいるかもしれません。しかし私たちは最後まで希望を失わずに祈り続けたいと思います。彼らも確かに、神様の選びと愛の中にあることを信じて、祈り続けたいと思います。神様が確かに、彼らの腕をしっかりと握ってくださっていることを信じて、祈り続けていきましょう。

天におられる私たちの主なる神様。

あなたは世界が造られる前から私たちを愛し、選んでくださいました。私たちの救いは、ただあなたによって守られ支えられています。私たちが信仰に迷う時も、病める時も、あなたがいつも私たちの腕を握りしめていてくださることを感謝します。

私たちも精一杯あなたの恵みに応えていけますように。あなたは御子イエス様を遣わし、私たちの罪のための贖いを成し遂げてくださいました。私たちもあなたの恵みに応えて、あなたの腕を握り返すことができますように。あなたを心から礼拝し、賛美するとともに、罪から離れ、イエス様に向かって成長して行けますように。

またあなたが愛し選ばれた人々には、まだ世界には沢山します。私たちを用いてくださって、私たちの伝道を通して、あなたの愛と選びを明らかにしてくださいますように。

また私たちが愛する者たちが、たとえ今あなたから離れているように見えても、あなたが確かにその腕をしっかり握っていてくださっていることを信じて、希望をもって祈り続けることができますように。

この祈りを、私たちの贖い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。